

Noto PLUS

11



広報のと

第93号

平成24年11月1日発行

■発行・能登町 ■編集・広報情報推進課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-97番地1

☎：0768-62-10000(地)
能登町URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp



ぶらり里山
ゆらり里海

第11回 『能登に学ぶ』



胴船 (ドウブネ)



『里山里海』というつながり

外 浦の間垣の里(輪島市大沢)で興味深い話を聞き
ました。四月から九月に大敷網をしていた大沢で
は、三波の人が請われて胴船の船頭になり、大沢
の工夫を指揮しました。能登島えの目からは動力船が廻航し、
胴船を連ねて沖まで曳航しました。網を道に広げて修理した
のは、辛抱強い六郎木(旧門前町)の人たち。網元は輪島の
人でした。技能集団や人夫が季節や場所によって能登半島内
で集結し、能登の者同士で働き支え合っていたというのです。
「旅の人」が番屋に住み、祭りにはぎやかで、恋愛や縁談な
ど次世代のつながりも生まれました。

民俗学者の宮本常一氏は、著作で能登の「塩木道」に触れ
ています。鶴町(神野)の人が山の雑木を外浦の塩田まで運
び、薪として塩と交換しました。その時に利用した尾根道が
塩木道です。内浦へは谷筋に造船材を運んだ「船木道」があ
りました。材木を流せる大きな川がなかったため杉を丸太に
し、担いで海岸まで下りたそうです。筆者はそれぞれの道を
歩いて、人間の英知というものに深く感動しています。
中居(穴水町)は大きな鉄釜を「貸釜」として能登各地で
塩田生産する集落に貸し付け、塩の売上の一部をもらって
いたそうです。錆びるのが早いから修理もしました。いわばメ
ンテナンス付きリース契約です。「鍋米」はその農村版。農
家の必需品で高価な鉄鍋を貸して、秋にお米をもらいました。
こちらは『食糧物納』リース契約です。
長い付き合いと信頼をベースにした仕事。お金に全てを頼
らずモノの等価交換で生きる工夫。売り渡すのではなく貸し
与える知恵。補い分かち合う人々のつながりを支えた大地と
森と海の生産力。内側は相互依存関係で結ばれながら外部的
には自立していた半島世界を、現代の課題に照らしながら蘇
らせられないものか。その学び方は、ヨソの事例を漁るの
ではなく、能登の足元の記憶を探ることです。



写真・文 山崎昭宏 Yamazaki Akihiro

【PROFILE】昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。
スローフードを標榜する友人が「料理民宿さんなみ」を訪れた。その
時ご主人と親しく談笑する現社長と知り合って移住希望者(私)
を紹介してくれた。私がここにいるのはそれがご縁。
ゲンザイ当目ノ事務所ニオリマス。
ブログ：ゆらりぶらり http://blog.livedoor.jp/yurariburari/



「広報のと」11月号の印刷費は一部当たり31円です。